

2024年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

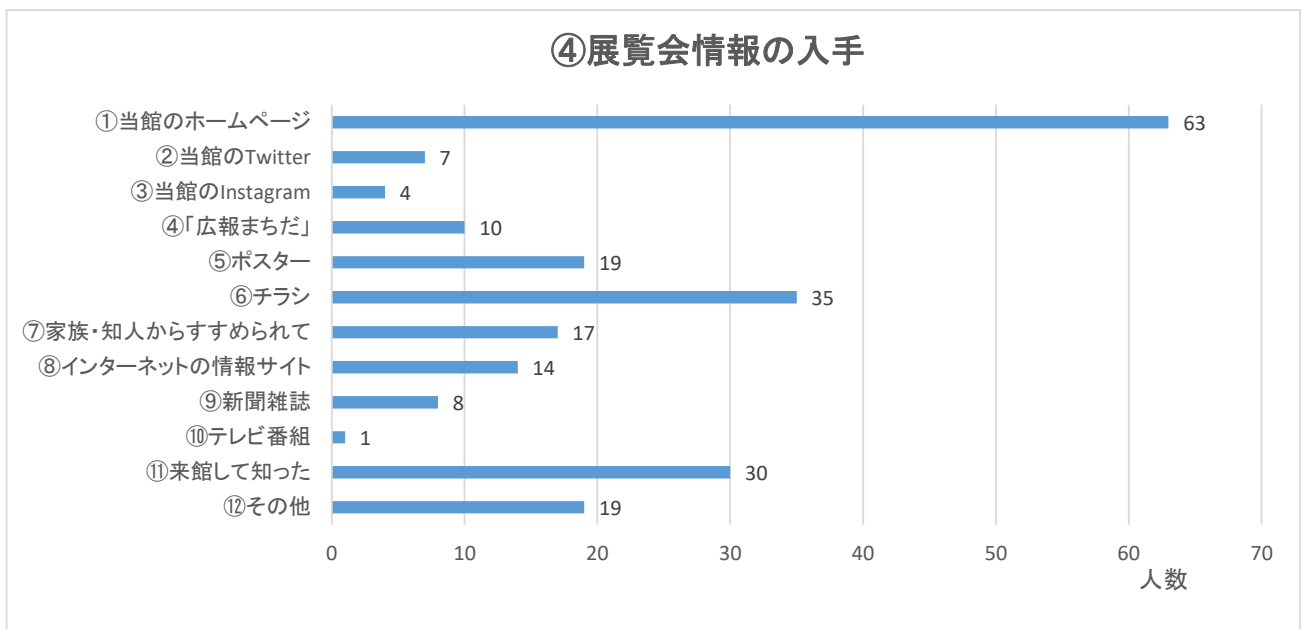
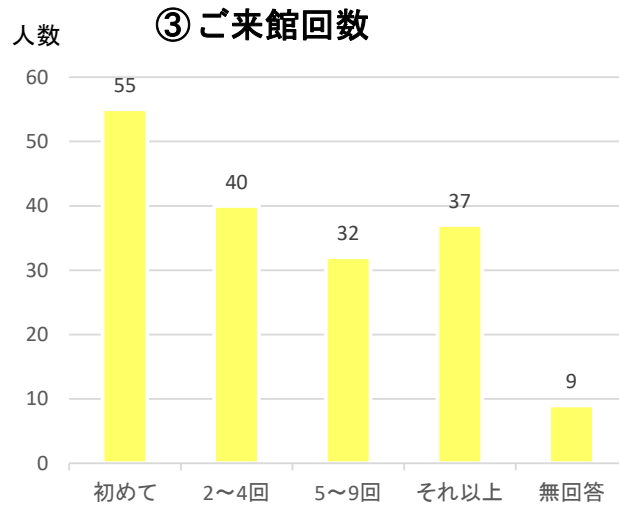
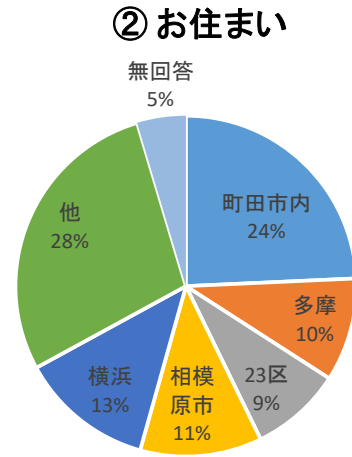
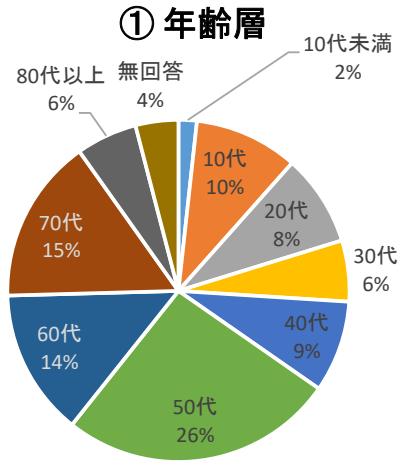
展覧会名	版画の青春 小野忠重と版画運動 —激動の1930—40年代を版画に刻んだ若者たち—			担当者名	滝沢恭司		
会期	2024年3月16日(土)～5月19日(日)			開催日数	56日間		
協賛・後援・協力	特別協力: 和歌山県立近代美術館						
巡回館	なし						
展覧会概要	昭和期に活躍した版画家であり版画史研究者でもあった小野忠重(1909-1990)を中心に1932年に結成された「新版画集団」、その発展的グループとして1937年に結成され、戦後1950年代まで活動を継続した「造型版画協会」、これらのグループによる版画運動の諸相を小野忠重の旧蔵品を中心とした約300点の作品によって紹介、見直した。第一部で新版画集団、第二部で造型版画協会に関して展示し、第一部は第1章(2節に分類)、第2章(2節に分類)で構成した。第二部は全3章で構成した。また全体で6つのコラム展示を設け、2つのグループの関心や課題意識を見える化した。						
ねらい・対象	「新版画集団」と「造型版画協会」という2つの版画グループの運動の諸相を探り、激動の1930-40年代という時代に版画に熱中した青年たちが、如何にこの時代を超えようとしたかを考える。また、明治期終わりに登場し、まだ30年にも満たなかった「創作版画」の、いわば「青春期」を振り返る機会とした。						
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数		
	記念講演会	4月14日(日)	1930年代日本の版画 小野忠重と藤牧義夫を中心に	原田光(無言館手伝い 元岩手県立美術館館長)	41		
	鼎談(ていだん)	4月28日(日)	知られざる版画運動 新版画集団と造型版画協会の若き版画家と作品	三木哲夫(兵庫陶芸美術館名誉館長)／西山純子(千葉市美術館学芸員)／滝沢恭司(国際版画美術館学芸員)	47		
	子ども講座(鑑賞・創作)[普及係]	3月30日(土)	子ども講座 —みてみてつくろう—	杉浦幸子(武蔵野美術大学芸術文化学科教授)／上村牧子(国際版画美術館学芸員)	24		
	プロムナード・コンサート	4月27日(土)	ピアノの音色で蘇る記憶	塩谷遥(ピアニスト)	153		
	ギャラリートーク	3月17日(日)／ 4月21日(日)	学芸員によるギャラリートーク	滝沢恭司(国際版画美術館学芸員)	57		
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日			
	900 円	450 円	無料	・初日:3/16 ・開館記念日:4/19 ・シルバーデー(満65歳以上無料):3/27、4/24			
観覧者数	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	3,117 人	2,128 人	5,245 人	4,825 人	270 人	150 人	0 人
	目標値	9,812 人					
主な収入	観覧料収入	図録販売収入	受託販売収入	その他の特定財源			
	2,235 千円	1,132 千円	355 千円	— 千円			
事業経費	<ul style="list-style-type: none"> ・講師謝礼 136千円 ・事業協力謝礼 300千円 ・著作権使用申請委託料 62千円 ・設置・撤去委託料 3,096千円 ・作品額装委託料 978千円 ・広告・宣伝委託料 629千円 ・ポスター等作成委託料 3,074千円 ・ディスプレイ作成委託料 979千円 ・イベント企画運営委託料 60千円 			9,254 千円			
主な広報・取材等	【テレビ】イツ・コミュニケーション、多摩テレビ 【新聞】読売新聞、3月7日「創作版画「青春期」たどる」／読売新聞(夕刊)4月3日「アートの葉」ほか 【雑誌】美術の窓、月刊美術、版画藝術、江戸楽、散歩の達人、ぜんび(全美連)、歴史街道 ほか 【ウェブ】美術手帖、note、アマーバログ、イロハニアート、アートスケープ、PHOTOSAI、個展なび、美術散歩、Sfumart、アートアジェンダ、IM(インターネットミュージアム) ほか						

アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)		
					企画の内容	展示作品	展示の仕方等
	173 件	3.3 %	24 %	68 %	94.7 %	92.9 %	81.1 %
	主なご意見	別紙参照					
工夫と反省点、改善方法	予備調査	展覧会の構成や出品作品を決めるにあたり、以下の機関、個人を訪れ調査をおこなった。和歌山県立近代美術館、福島県立美術館、東京国立近代美術館、神奈川県立近代美術館、版画堂、山田書店、小野忠重遺族。このうち小野忠重遺族方には2023年6月と9月に訪れ、小野忠重旧蔵の関連作品と資料を大量に借用、国際版画美術館に運搬して収蔵庫で調査にあたった。また、新版画集団、造型版画協会のメンバーだった清水正博の旧蔵作品を多数収蔵する和歌山県立近代美術館に2回出張し、多数の作品・資料の調査を行った。					
	作品選択	新版画集団と造型版画協会の作家、夫々の出品作品の傾向、活動を伝えることを目指して二部構成とし、第一部を第1章(全2節)、第2章(全2節)、第二部を全3章で展示構成することを決めた、また、全体で6つのコラムを設けた。このような構成に従って可能な限り多くの作家を選び、その作家の作品傾向が分かる展示を心掛けた。結果的に約40名の作家を取り上げることができ、最終的に出品点数は300点を超えた。そのなかで小野忠重や藤牧義夫、水船六洲、斎藤清など重要な作家については出品点数を多くし、それ以外の作家は内容から判断して点数を絞り込んだ。グループの活動や運動の実態を理解するために、作家や作品を多く展示することでボリューム感のある展示となった。					
	図録	A5変形192頁の展覧会図録を1200部作成。各コラムに出品した作品は一部掲載としたが、それ以外の本編で展示した作品の図版は全て掲載した。掲載にあたっては、著作権がある作家についてその継承者を調査し、判明した人全てに掲載許可を申請した。前付けに、展覧会担当者による新版画集団と造型版画協会の全体像が把握できるテキストを掲載、カラー図版の頁には、章・節・コラムの解説を付した。また、後付けに作家解説、兵庫陶芸美術館名誉館長による「新版画集団・造型版画協会関連年表1931～58」「『新版画』所収版画一覧」「新版画集団／造型版画協会展出品目録」を掲載した。最後に出品作品のリストを掲載。全体として資料的価値の高い展覧会図録となったと考えている。					
	広報	ちらし32,000枚、ポスター1,000部作成。2つのグループを紹介する企画展とあつてメインビジュアルの作成に苦労した。最初は複数の作家の図版で構成する予定であったがデザインが思わしくなく、最終的に小野忠重の《ジャズを廻る人々》1点を使用してメインビジュアルとした。ちらし裏面には6名の作家の作品図版を掲載して出品作品のイメージを伝えた。市内公立小中学校、各地区センター、全国的美術館など約700カ所に送付。また、国際版画美術館公式サイトに詳細な展覧会情報をアップ。そのほか展覧会やイベント、作品解説などについてSNSへ積極的に投稿、市長記者会見同席、広報まちだへの掲載、内覧会の実施(プレス内覧会含む)など多角的に広報を展開させた。					
	宣伝	さまざまな電子機器で情報入手することが一般化した現況下でより効率的かつ効果的に美術関係者へ情報が届けられるために、特定のウェブサイトから関係者がプレスリリースや画像をダウンロードできるオンライン・プレスリリースを関係事業者に委託した。また、株式会社アートビートに委託し、同社が運営するポータルサイトtokyo art beatにレビュー記事を掲載してもらい、SNSも配信してもらった。レビュー記事は神奈川県立近代美術館館長の水沢勉氏による熱のこもったインパクトのある記事が掲載された。					
	ディスプレイ	出品点数が多く、また額装作品、冊子作品があり、展示空間の構成を工夫する必要があった。第一企画展示室に第一部の作品を展示し、第二企画展示室に第二部の作品を展示し、可能な限り動線も分かりやすくした。しかし、点数が多かったこと、壁展示・ケース展示が入り組んでいたこと、6つのコラムをととところろに挿入したこと、所蔵する可動壁を全て使用して展示空間をつくったことなどから、動線が分かりにくかったというアンケート回答も見られた。章・節・コラム(以上和英バイリンガル)、作家解説なども展示した。					
	イベント	関連イベントとして原田光氏(無言館手伝い、元岩手県立美術館館長)による講演会、三木哲夫氏(兵庫陶芸美術館館長)、西山純子氏(千葉市美術館学芸員)、本展企画担当学芸員による鼎談を開催した。また、普及係による企画で、武蔵野美術大学教授・杉浦幸子氏を迎え、小学校3～6年生を対象に鑑賞と創作体験「子ども講座—みてみてつくろう—」を開催した。そのほかにも、担当学芸員によるギャラリートーク、管理係企画による、ピアニストの塩谷遥氏のプロムナード・コンサートを開催した。					
	小中学生向けのガイドとキャプション	年度末から年度初めにかけての企画展ということもあり、本展では特別に小中学生向けの解説ガイドや解説パネルの設置は行わなかったが、普及係企画で、小学校3～6年生対象の「子ども講座—みてみてつくろう—」を実施した。本子ども講座では、企画展会場での鑑賞の際に担当学芸員が解説したり質問を投げかけるなどのコーナーもあった。また創作体験は「キッチンリトグラフに挑戦!! パターとコーラで、みんなのまちを刷ってみよう!」というタイトルで実施され、食材で版画をつくるという意表を突く興味深い内容であった。参加者も熱心に取り組んでいた。					
その他特記事項	本展開催を機に、小野忠重遺族から、小野忠重旧蔵の新版画集団と造型版画協会の関連作品(約290点)、資料(約25点)の寄贈申し出をいただいている。						
館長からの指導点							
運営協議会での検証							

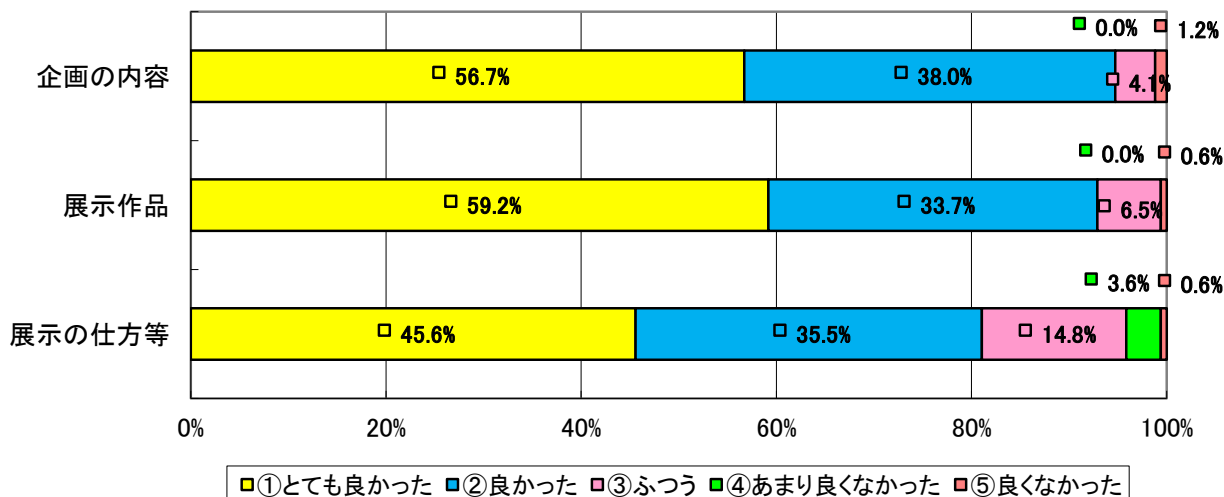
「版画の青春 小野忠重と版画運動 —激動の1930-40年代を版画に刻んだ若者たち—」展 アンケート集計結果

開催期間：2024年3月16日（土）～5月19日（日）

回答者数： 173 人（総入館者数：5,245 人 アンケート回収率： 3.3%）



⑤ 回答者の満足度



⑥ 主なご意見・感想

- ◆ 各種の資料や作品が多く展示されていたが、まとめ方が工夫・研究されていて感心した。
- ◆ 内容がコアでレア、多くの人に見てほしい企画だった。
- ◆ 版画でここまで表現できると知って驚いた。面白かった。
- ◆ 版画の良さを再認識した。自分でも制作してみたい。
- ◆ さまざまな作家がいて、伝えようとしていることを考えたり、好みの作品を探ることができて楽しかった。ポスターやちらし、目録なども展示されていて時代背景なども伝わってきた。今後の企画も期待している。
- ◆ ギャラリートークがよかった。
- ◆ 「版画の青春」というタイトルに相応しい、若者が版画に打ち込んでいる様子が作品に息づいていると感じた。
- ◆ 版画家について有名無名を問わず創作の軌跡が丁寧に取り上げられていて感動した。
- ◆ 近代以降の美術はわかりにくいと感じているが、勉強になった。
- ◆ 小野忠重と藤牧義夫に関心がある。今回はその周辺の作家たちの作品も観覧できて有難かった。
- ◆ 絵には疎いが楽しみやすい内容だった。またうかがう。
- ◆ 版画はいい。心が揺さぶられた。作者の気持ちが伝わってくる。
- ◆ 美術館を訪れることがなかったが、今回はすごく有意義な時間を過ごせた。次回の展示も楽しみ。
- ◆ スタッフが優しかった。また行きたい。
- ◆ いつ来ても素敵な美術館で、心が安らぐ。
- ◆ 町田(国際版画美術館)でしかできない企画展だった。 など

以下は要望等の意見

- ◇ 写真撮影は全面的に禁止してほしい。スマホで撮影しまくっている人がわずらわしい。
- ◇ 小野忠重作品ような黒っぽい作品は見ている人が写るなど見にくく、また撮影もうまくできないので、無反射ガラスの額で展示してほしい。
- ◇ 動線が分かりにくかった。
- ◇ 年間パスポートを発行してほしい。
- ◇ シルバーデーでも半券がほしい。 など